※令和４年度以降入学生用

学校番号	321

令和５年度　国語科

教科	国語科	科目	論理国語	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	探求　論理国語　（桐原書店）						
副教材等	常用漢字クリア　（尚文出版） LT 現代文２　（浜島書店） 常用国語便覧　（浜島書店） キーワードの卵　（尚文出版） 大学入試漢字 TOP２０００　（いいずな書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・発展的な国語の力を身に付けることを心がけましょう。
・話し合いや文章記述、発表など、アクティブな活動を取り入れた授業を行います。
・様々な文章を「読む能力」を向上させるとともに、コミュニケーションのための「話す・聞く能力」や意思を伝えるための「書く能力」をしっかりと身に付けてください。
・漢字をはじめとする基礎的語彙力や文法の知識をしっかりと身に付けて応用してください。
・予習として必ず本文を読み、意味の分からない語句は辞書で調べておきましょう。
・提出物の期限は守りましょう。定期考査は学習計画を立てて臨んでください。

２　学習の到達目標

・教材の選択に際しては、生徒の興味が湧き出るような教材を選び、語彙を増やし、正確な漢字の読みと書き取りの力をつけていく。評論では、現代のキーワードにつながる評論を取り上げ、時代を理解する基本的な考え方をまず認識できるようになること、さらに、一面的でない捉え方や自分の思考を深めて発展させていくことを目指す。
・以上のように、様々な文章の精読によって、豊かな言語感覚と多様な価値観を養い、お互いの意見や感想を交換し批評する力（伝え合う力）を身につけ、他者との円滑なコミュニケーションを図ることのできる力を養っていくことを到達目標とする。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度

※令和４年度以降入学生用

観点の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を延ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
一学期	つながりの中で ［教材］ 「チンパンジーはおせっかいをしない」 「いのちは誰のものか」	a：常用漢字の読みに慣れ、書くことにも取り組んでいる。 b［ 書 ］：内容や構成を理解している。 c：コミュニケーションをとって、自分の経験を話し合おうとしている。	小テスト	ワークシート	グループワーク
二学期	言葉の可能性 ［教材］ 「動物の信号と人間の言語」 「行動としての話し言葉」	a：文章の組み立てや接続の仕方を理解している。 b［ 話/聞 ］：自分の意見、考えを伝えようとしている。 c：自分の意見をまとめようとしている。	定期考査	ワークシート	ワークシート
	環境に寄り添う営み ［教材］ 「イスラム感覚」 「木を伐る人/植える人」	a：文章の構成や展開を確かめ、文章の内容にふさわしい文体や語句、表現の技法が用いられているかどうかを考察しようとしている。 b［ 書 ］：自らの意見や考えを述べようとしている。 c：自分の意見を他者にしっかりと伝えようとしている。	定期考査	ワークシート	発表
三	テクノロジーの開く世界 ［教材］ 「芸術も科学も別世界を見せる」 「ロボットは心を持つか」	a：実社会において必要な語句や表現を理解しようとしている。 b［ 読 ］：音読において他者と協働しようとしている c：本文を踏まえて実社会との比較を行おうとしている。	小テスト	ペアワーク	ワークシート

※令和４年度以降入学生用

	共同体から市民社会へ ［教材］ 「「無駄」と進化」 「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」	a:言葉の働きについて理解している。 b[　話/聞　]:他者の意見を聞いて、自らの考えを広げ、深めている。 c:他者と協力して、話し合いの結論を導いている。	問題演習	グループワーク	ワークシート

４　学習の活動

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準[ｂ]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　０　）時間

・書くこと　…　（　２５～３０　）時間

・読むこと　…　（　４０～４５　）時間